



里見八大傳

第三輯

卷拾五

Kodak Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19

曲亭馬琴著

第二輯

八犬傳

東京名山閣版

八犬傳第三集叙

闇作室

門前有狂狗其酒不沽而主人不曉猶且
恨酒之不沽。痴情若是者謂之衆人衆人
有清濁猶酒有醪與醯也。而清者其味淡
薄。雖醉易醒。濁者其味甘美而醪耐矣。奚
思今者之衆懼後者之寡也是故瞿曇氏
說法以為有地獄果天堂樂於是。不思後
者懼矣。又何貴耳者之衆不賤目者之寡
也。是故南華子齊物論以欲禁爭訟於是。

貴耳賤目者愧矣。然若彼寂滅之教。媚者衆。悟者彌寡矣。宜其媚者。口誦經而不能釋其義。其迷者。心禱利益而不知所欲之。凡如之之禪。兜雖度無有其功。昔者震旦有烏髮善智識。推因辨果。誘衆生以俗談。醒之以勸懲。其意精巧。其文奇絕。乃方便為經。寓言為緯。是以其美如錦繡。其甘如飴蜜。蒙昧蟻附。不能去焉。既而有所之煩惱。化為屎溺。遂解脫糞門。則不覺到獎

善之域。暫時為無垢之人。云不亦奇乎哉。余自少愆事。戲墨然。狗才追馬尾。老於閭巷。唯於其勸懲。每編不讓古人。敢欲使婦幼到獎善之域。嘗所著八犬傳。亦其一書也。今嗣其編。三而刻。且成。因題數行於簡端。嗚呼。狗兒佛性。以無為字眼。人則愛媚掉其尾。我則懼悞吠。帝堯冀為瞽者。獵煩惱狗。以開一條迷路。聞者幸勿咎其無根文。政元年九月盡日。蓑笠漁隱。



南總見八大傳第三輯摭目錄

卷之壹

第二十一回

額藏間謀全信乃

犬塚懷舊觀青梅

同卷

第二十二回

濱路竊悼親族

糠助病思其子

卷之貳

第二十三回

大塚義諾遺託

網乾漫賣歌曲

同卷

第二十四回

軍木媒說莊官

蕃六偽渙神宮

卷之三

第二十五回

合晴濱路訟憂苦

告奸額藏還主家

同卷

第二十六回

弄權墨官促婚夕

示殺頑父羞再醮

卷之四

第二十七回

左母二郎夜豪奪新人

寂寞道人見火定圓塚

同卷

第二十八回

罵仇濱路死節

認族忠與譚故

卷之五

第二十九回

相換雙玉額藏識類

相遇而敵義奴報怨

同卷

第三十回

芳流閣上信乃血戰

坂東河原見八頭勇

統計三十回其第一回迄第二十回既錄于前板而輯

犬飼見八信道

犬飼見八信道

田單破燕之日
火燎平原
阿難示寂之年
煙和兩行

劍秘八
極秘

犬山節
忠與

山書堂藏

何もあつと心はぬるせん
細うねえひとくあふ乃
船と味ゆき後

庄客糠助



大塚墓六

奴隷背み

新れつうに
あつひ乃貝乃
片おもむ
り夜
は
ま
ま
ま
ま

殿上官六

出像二頁三言八刺



大虚容實創自鴻濛
 渾沌未分孰主人公
 永夜長乃宿夢はなれ
 る歌の夢も夢のちや
 山と水ながらむ

乾坤一草草のあり 信天翁題詠

南總里見八犬傳第三輯卷之一

東都 曲亭主人編次

第廿一回

額藏間 謀信乃を全む
 犬塚懐 舊青梅を觀に

書林
 和名古屋
 香月舎

却ていぬつゝいぬつゝ 犬塚大川の両童子。信乃額藏ハ送はしを告義を結びく。あふ久
 後を相譚ふ折是然と足音して外面より来るものありけり。信乃も耳を
 側し目注をうけけり。額藏を中より狐の鳴子を尾落めし。二三三四
 被死て臥せし程に片折戸小掛より引板の鳴子を尾落めし。二三三四
 うち喰死和子よ宿所より出る。犬塚助がよりとり。恙ふれやと呼門を
 障子の破隙より覗れ支木朽る竹縁は掛る片簾片胡坐背さるる
 ひをつれ。庭の新樹をかえりたり。當下信乃ハ身を起し。かき障

かゝる額藏より立ち板金剛を取らせり。龜條裳を引揚て納戸の方へ
見えり。と往て還り侍る人といふ夫、領くの、村へやぬ苗草代親小
劣とぬ侄の宿背門の島の囃傳ひ捷徑より進ませける。かく龜條八信
乃が伯所へ赴けり。常中あはれをもちほ、笑ひ信乃よりさう後然やあ
可要るけいふゆも妨ぐ。さあけけ歩が親さふ何しあまるとあられん
けふ別の談ふも侍る。この額藏さるるか。情由あはれと機嫌小憎めて。
使ふそのあまら、虚病起り還り。と明と地又人小生口成せて、伯母が
あろも済まぬや昔ハ疎くとも。今ハ親死に侍る伯母あり小厨の水を
煮まら。飯の中より湯麥奥歯は物々夾て心かりふ侍るか。墓六
ども腹立ち。額藏をいと憎む。叱懲り。あひく渠ハ忽地非を悔て
勸解しとく。とうち泣けり。よりて再びあまら。むつたあれるの、とあめ

れと足らぬれハ云々と教諭し使えハ渠がふふ幸ひ。伯母も教ひこの
うす。あへやと見えれば額藏愧る面色。と頭を掻けり。小膳を
勧め今阿家さあの方宣ふ。と心小物のあふあはれと朝の炊中させめり。
あつた。とろれ鍋の尻用る居る置れ。故に頭顱病。といひれ。それゆ
己が思ふ。僻あろふゆいん。詩させめ人と勸解ふけり。あまら。の、ハ豫
て。と。謀し合せり。あはれ。信乃ハ此彼あへむ。うち敬篤たる面色。とて
あひあひうけあはれ。勸解よりあまら。親の在かり。日よと薪水の夏ま
はるも熟る。資のへあへむ。と。あひあひ。疎き。と。あまら。それさ
覚む。か。と。より母屋。夫婦。あまら。あかけられんハ皆。あのか罪。と
し。疎意あはれ。も。い。と。い。ふ。龜條。うち笑く。あまら。ん。め。あ。あ
この中直りせり。あはれ。額藏を留めけり。背ぬを返。と。あまら。これ



額蔵を
いふと
大塚が宿
所小到

就ても亡人の忌果るまで二轡の家成隔て俟あふふより不便なるが。
願ふ五上の忌日限りおん男を母屋へ艱ひとふ。後やとくゆりたる墓
六上の物なり。あつせまふくひひ多し。おん男を込を汲みて月日れると
待ふ。いぬふ否秋のふを。と回き。信乃ハ嘆息。白屋あふ。何
あふ。親を愛ふ。今又ハ離さる。ハ侍まふ。四十九日由別まふ。あふ。百
日と。その期あふ。な。去か。は。あふ。の。隨。て。物。思
ハ。あふ。日。を。過。へ。と。罪。あふ。と。あふ。計。ひ。又。仰。は。侍。り。ゆ。と。
愉く諾ひ。ハ。電。條。あふ。秋。ひ。く。吁。賢。と。あふ。け。り。あふ。子。ぞ。然
ら。五七の連夜。ハ。都。丸。里。人。を。招。け。と。佛。の。ぬ。ふ。物。を。態。進。ひ。その
次の日。ハ。戸。を。鎖。て。おん。男。ハ。母。屋。へ。移。り。又。詞。歌。あふ。と。女。兒。濱。路。も
侍。り。渠。を。おん。男。が。妹。と。お。上。さ。ぬ。と。見。ひ。後。と。い。ひ。や。独。ち。笑。ハ。

信乃ハ果まて。心せ。電。條。の。機。嫌。く。指。樓。へ。と。ち。点。頭。あ。れ。ハ。
三十五日。ハ。け。り。僅。ハ。四。日。が。程。り。暮。六。の。ゆ。歡。せ。翌。日。連。夜。の。准。後
せん。さ。吾。侪。ハ。罷。る。額。藏。ハ。毎。事。ハ。あ。ろ。を。付。く。仕。へ。い。う。し。
と。と。あ。ふ。信。乃。も。あ。ろ。と。心。さ。す。火。あ。れ。水。あ。れ。使。ひ。最。上。の。川。は
曳。とい。ふ。舟。漕。ハ。乗。り。蒐。く。打。懲。と。あ。け。ハ。あ。ふ。彼。背。め。奴。ハ。月
門。や。を。額。藏。を。お。く。来。つ。れ。ハ。お。け。ハ。供。へ。母。屋。へ。還。ま。と。け。や。い。ふ。と。
ま。ま。あ。ふ。と。け。り。と。庖。偏。ろ。障。子。を。か。を。引。開。れ。ハ。か。男。が。落。著。良。ろ。
其。知。ふ。を。り。純。や。や。門。へ。あ。と。い。そ。ぐ。と。さ。や。を。止。め。あ。と。信。乃。ハ
い。ろ。く。席。を。避。日。ハ。と。長。く。侍。ろ。今。且。く。語。せ。又。飯。の。素。湯。ハ。佛。侍。り。
ハ。ハ。頭。を。ち。掉。く。茶。を。た。と。を。同。ハ。侍。る。曲。突。下。の。鹿。采。麥。の。お。納
片。响。と。ハ。損。ま。り。又。ア。を。来。め。と。い。う。け。と。あ。を。送。る。信。乃。額。藏。腹。あ。か。え

つづいて。背ぬハ縁ふり成突くと信乃小別を黄楊樹の川込伸し庭を出て
主の老女は引さる。且、額藏ハ外面へ立出く母屋のうへへ眺め立
てめて。辺右邊をえりつ。片折戸を楚と閉舊の如く對坐して。莊官夫婦は
いさゝし。又、いひつ事の趣。竊く信乃小告る。信乃ハ頻々嘆息し。
親のゐる中、日ごとくも異母の姉あり。又、いひく。只一人の伯母とあり。今
こゝに蓬兒心あるべしや。さるをさふかく疑ふ。雙言敵の如かりれて。長月
日をいひ。彼方なるを送る。元寔小進退究りぬといひ。又嘆息を
額藏に。成慰めく。さるを其のると伯母内夫婦ハ慾のあり。只利の
為小骨肉の愛を忘る。情を知る。邪氣を避る。何うあらん。これ又あんが
影は添ふ。返間の謀。その昏ハ釋懸ある。かれは只ひとり。あんがと吾
侪ハ睨し。その志ある。め。と。さるをさふかく疑ふ。さるを其のると伯母内夫婦ハ慾のあり。只利の

毎小信用せられん九石の弓も張るゝの久しき弛むと云ふは彼人との
 害心ありとも。あんが心の信りて柔よく剛を受めり。伯母は邪慳乃角
 折れ。終る慈母とあるとある。や其妙なる。彼方さぬ。身
 を投掛く。そのせんをえり。あて物を思ふとも。その期の役次と
 心疎し。諫め信乃ハ忽地感悟。わがをも其余と笑。人乃才
 長短あり。只一歳の弟ととも。あんが及ハさる。遠く。伯母は
 身を寄る。原是親の選言なれば吉凶ハ只運は任せん。跡て母屋に
 懐成令。腹心を相結。難く。あは後。の。教ある。示
 一人。額藏頭を掛。才。あんが及ねども。俗ふ。岡見八目。素
 智囊。富の機。臨。変。応。禍を避。これ。竊。盾。あ
 笑の中。御。努。秘。と。密。結。示。合。忠。慮。

つづき。昔々八尋の川に突く信乃小別を黄楊樹の川に伸し庭を
主の老女は引さる。且、額藏ハ外面へ立寄る母屋のふみち眺め
て。右邊をえり。片折戸を楚と閉舊の処は對坐して莊官夫婦
の親のふり中よりとも異母の姉あり又、只一人の伯母とあり。今
さふ達心めく。や、をさふか疑ふ。雙敵の如かりて。長月
日をいつ。彼方さふ送る。元來進退究りぬといひ。又嘆息
額藏。こゝろ慰め。さふて其の。伯母。夫婦の。只利の
為。骨肉の愛を忘る。情を知らず。邪氣を避ふ。何うあ。これ又。影
影。添へ。返間の謀。その。釋懸。お。これ。只。吾
倚。眺。その志。め。と。さ。と。其。が。

毎。信用。せ。九石の弓。張。久。弛。彼。人。小
害。心。あり。と。お。乃。心。の。信。り。柔。剛。を。受。伯。母。傳。邪。怪。乃。角
折。終。慈。母。と。あ。え。や。其。さ。と。彼。方。さ。
身。を。投。掛。その。せん。を。え。多。う。あ。て。物。を。も。その。期。役。更。ち
心。隙。と。諫。信。乃。忽。地。感。悟。わ。り。を。覺。余。と。笑。人。乃。才
又。長。短。あり。只。一。歳。の。弟。と。も。お。乃。及。ハ。さ。遠。う。伯。母。小。あ
乃。を。寄。る。と。原。親。の。送。言。な。れ。バ。吉。凶。ハ。只。運。は。任。せ。鮎。て。母。屋。小。殺。り
て。腹。心。を。相。結。工。難。う。あ。後。の。さ。も。教。あ。う。バ
示。多。う。額。藏。頭。を。拊。か。才。お。乃。及。ね。と。俗。ふ。い。岡。見。八。目。ん
素。う。智。囊。富。め。ハ。機。臨。變。小。応。と。禍。を。避。多。う。れ。又。竊。小。指。
あ。て。笑。の中。る。り。を。御。ん。努。秘。と。と。密。結。示。合。と。思。慮。遠。

謀現一奴の賢童あり。る。招き番作が二十五日の速夜ふる。電條ホハ
まろの。美小贈の用意。く。碗家具。ふ。田屋より。運。小。所。幾。矣。り。
寔。足。ハ。挿。棒。も。出。く。働。く。臺。所。物。大。く。小。整。へ。く。や。黄。昏。は。な。る。ふ。ふ。
この日も信乃ハ亡親の墓参りせり。叙。は。菩提院。る。法。師。を。伴。ひ。遠。く。
ま。た。れ。バ。法。師。ハ。家。畜。より。對。ひ。木。魚。敲。え。く。着。經。由。一。口。茹。子。と。澄。
汁。料。供。の。菜。を。數。へ。く。と。浩。如。小。糠。助。ホ。里。人。夥。詣。來。つ。寒。暖。の。時。宜。
口。誼。或。は。る。人。の。め。ひ。あ。く。昨。け。の。か。り。る。う。く。二。十。五。日。小。當。り。く。ふ。飲。
を。常。速。は。な。の。る。う。く。之。ハ。浮。世。ハ。夢。助。の。孰。も。か。結。る。され。ば。や。然。ふ。
御。免。さ。る。う。く。あ。ま。り。上。坐。ぐ。不。瞞。千。萬。奴。く。遠。慮。し。及。ぶ。ぬ。め。お。を。
取。ふ。飲。と。ま。く。迷。惑。嫌。平。ぬ。し。を。年。役。さ。宣。ふ。か。六。十。の。延。破。と。い。ふ。と。あり。
銀。鞘。把。て。も。若。衆。小。一。畝。と。後。ろ。く。と。あ。ふ。ふ。と。仁。小。別。懇。る。じ。糠。助。の。

上。宮。あ。れ。お。坐。を。あ。れ。と。起。つ。居。つ。謙。退。辞。讓。散。動。を。く。稍。二。側。は。
坐。を。占。ま。信。乃。が。ふ。つ。と。並。居。る。飯。小。中。酒。は。換。拶。紛。紜。由。断。を。ん。
済。額。藏。が。碗。を。奉。め。く。浮。盛。ハ。鼻。は。支。て。又。胸。は。支。ぬ。ぬ。と。汁。
破。と。半。減。く。自。然。吻。く。下。戸。の。恨。を。冷。笑。ハ。宗。旨。違。の。上。戸。客。法。
師。ハ。上。平。小。六。歎。仙。歎。膝。崩。く。置。き。と。り。時。分。を。計。り。て。墓。六。ハ。縁。類。
より。遠。り。来。く。上。座。の。障。子。推。せ。れ。孰。も。揃。え。く。よ。く。身。ま。う。せ。て。進。
ら。め。の。ハ。み。た。れ。と。窺。え。く。相。譚。多。し。い。ひ。く。進。て。席。小。著。れ。の。首。
入。ま。く。引。伸。を。袴。の。辟。衣。積。由。菱。織。の。い。を。絞。め。主。態。は。衆。皆。齊。一。著。を。
措。き。ひ。く。る。れ。ハ。變。應。鑑。武。者。ゆ。め。は。松。い。も。屈。伸。と。く。不。自。由。小。額。
つ。上。の。あ。め。ぬ。や。く。下。さ。ま。と。く。一。人。が。父。ハ。皆。咄。と。笑。ひ。小。堪。む。噴。散。を。
飯。粒。脂。は。花。雪。吹。れ。つ。と。な。る。と。小。拾。め。は。餘。る。粒。を。辛。苦。背。門。の。

菴が、お宿お助く、ふまふと、叩ちまふ。かちけき、墓六、苦切て、んぬ、
且、ここの、各、各位、まゝ、かく、か妻ハ舊の地頭大塚匠、
の嫡女、まゝ、番作が婿、まゝ、嘉吉の結城合戦、その家、一旦、滅亡、
子孫、氏、同、ふ、後、再興、せ、
と、か、死せりと、せ、番作、妻、を、還、
莊官、ま、譲、ら、
妨、ひ、も、事、を、恨、め、
さ、
か、
勸、解、
家、を、購、ひ、田園、を、隸、て、生涯、養、れ、
出、
酸、鼻、

述、ぬ、役、義、の、
地、を、
養、ひ、
相、譚、
運、
て、
置、
塚、氏、の、世、嗣、
と、同、ハ、衆、皆、頭、を、
下、の、差、
ま、
い、

估券ハ其領多ク又この家ハ床を拂多ク彼番作田の稻城とせん名位未
知せしむと信めしとあが田引くとあるや水飲百姓頼んあはしく
応難れハ庖福のうり龜條ハ相槌撃んと進み入り信乃が子あり子
推並びけの仏はとまれかれこの子ハ吾侪が壻ある子あり子を奉ぬ
めハ人の子を養ふと慈む小飲香のるれ怪小嬢る田園役もあつ
とれ彼番作田を何ゆせん信乃も如此あるゆえ人よりして是宿の
竈の下ハ果ハおん才が物ありの憎しき弟でも今かうあり
て最惜れハ東をえても西見ても伯母より外小親類あるこの子は久
後想像れハ襪襪の中より字より濱路ふすて不便可愛くふりと
いひけり頻り小枝の袖の雨降るといふて濡るると龜條は泣かれて
諸鬼うちむ里人ホッとして存一嘆息一寔小親ハ憂苦會ふ人乃

誠と今ぞ知し伯田君の述懐ハ連夜の追善の上より番作との子息ハ
壻のふと信乃ハ一郷の人入とありのや何ぞ疑ふべけん田園を社
官大人且く管領せんる勿論ふいと異口同音ふ心ハ墓六龜條飲
ひけの冷る盛ええ盃を勧め飯を喰ひく歎待ちえぬあり
かてその夜初更の比饗膳する果ハ法師ハ布施の二枚頭筋のあ
つるやいふと尻小跟く莊客們皆謝辞を述揚し漸く小出の門廻向紙
燭由法の燈火と後進先より一口念仏南無阿弥反ぬ輾るなと上戸を
扶かり去迹ハさかき大風の風さる如く蕭々小洗ひ争めて拭ひ納る五
器のまじのさめえなりかくその詰朝信乃ハ亡父母の墓小香花を向人
菩提院へ赴けし還るをみて暮六夫婦ハ小厨ホを駈立ち大塚が家の
調度を取運せ竈下の物席薦戸障ハ物大なる沽却るなや空房ハ

まゝりけり。信乃ハかうともあまふて。く。宿近く。道の次。ふ。在。の
あま。と。ふ。れ。は。是。額。藏。なり。裳。を。高。く。端。折。揚。ぐ。糾。袪。之。精。悍。く。煤。ふ
汚。ま。う。額。の。行。を。推。扶。ひ。う。為。体。あ。ろ。ろ。く。あ。ふ。あ。ん。と。何。事。成。る。ん
る。ふ。飲。と。同。つ。走。り。通。つ。け。ハ。額。藏。後。方。を。見。え。り。く。今。朝。一。も。あ。ん。が。出
あ。ひ。く。ろ。う。あ。ま。の。秘。も。あ。ま。ふ。さ。官。殿。人。を。お。て。来。く。宿。所。の。調。度。を
取。運。せ。或。ハ。沽。却。る。ど。せ。れ。一。ふ。吾。侍。も。夫。役。小。駄。と。ま。て。ん。又。歳。暮。の
煤。掃。如。く。も。足。も。か。の。如。し。今。や。ろ。う。事。果。さ。う。腹。ハ。ま。ん。が。堪。忍。び。く。
直。ふ。母。屋。へ。赴。れ。又。と。い。ふ。ま。う。信。乃。ハ。呆。れ。果。か。く。覚。期。の。あ。れ。だ。親。乃
五。七。の。忌。日。あ。る。け。の。一。日。を。過。さ。も。あ。ま。の。屋。に。ぬ。る。の。あ。ま。か。う。急。れ。ハ。衆。人
の。衣。を。あ。ま。の。め。あ。ま。の。長。物。ろ。う。人。の。や。あ。ま。の。疾。め。た。又。と。先。の。ま。ま。と。く。
徐。々。進。む。が。宿。を。見。過。り。か。く。ま。ま。の。外。の。垣。根。小。異。る。が。ぬ。杜。仲。折。ら

ま。庭。面。み。つ。と。か。え。門。の。鎖。さ。る。名。残。の。惜。け。ま。堆。ハ。苗。ね。と。慨。然。と。且。く
其。如。く。立。在。つ。彼。と。四。郎。を。埋。め。る。梅。樹。の。ろ。ろ。成。足。て。も。只。愛。惜。の。袂。露
け。い。ぞ。や。果。が。為。め。も。宰。都。婆。を。建。人。と。ひ。く。と。こ。ろ。て。短。刀。小。著。さ。る。刀。子。を
振。り。梅。の。幹。を。推。削。さ。る。墨。斗。の。筆。を。振。出。し。如。是。畜。生。幾。苦。提。心。南
無。阿。弥。陀。佛。と。字。一。つ。け。て。筆。を。納。く。仏。名。を。十。遍。ろ。う。唱。え。る。と。こ。ろ。あ。る
づ。れ。は。あ。ま。の。ま。ま。の。伯。母。の。宿。所。小。到。り。墓。六。龜。條。待。つ。け。て。呼。信。乃。飲
ま。ち。う。う。疾。あ。る。と。招。れ。よ。せ。と。あ。ま。の。寺。ろ。う。罷。さ。る。後。小。の。拂。ん。と
あ。ま。の。ま。ま。の。さ。る。一。日。小。物。方。著。を。教。ふ。あ。ん。が。ふ。ん。せ。て。歡。笑。し。あ。ま。の。ま
ま。と。心。つ。そ。だ。の。せ。れ。隨。ふ。舊。の。宿。所。空。拂。し。く。家。庭。ハ。い。あ。と。一
つ。あ。ま。の。け。の。ろ。う。あ。ま。の。あ。ん。が。家。に。昨。夕。の。い。ひ。つ。ろ。う。あ。ま。の。あ。ん。が。廿。歳。の
ろ。う。ん。比。價。路。を。妻。し。く。二。代。の。莊。官。我。ホ。背。門。へ。隱。居。し。く。左。團。ぐ。消。さ

日をいと待てばくあふの。遺路く。と。あふ。夫婦が。間。推。ま。え。ん。あ。熟。
中。小。物。い。ら。せ。ね。と。間。近。く。な。れ。相。識。の。信。乃。も。そ。の。と。後。兄。才。け。ふ。より。
あ。ち。の。子。み。あ。り。大。に。く。る。り。ふ。そ。の。の。良。人。等。く。背。丈。引。伸。し。て。や。
夫。婦。小。あ。り。く。ん。く。睦。く。あ。り。と。説。示。さ。ま。て。恥。ぢ。ろ。む。遺。路。ハ。と。友。衛。
堪。ぢ。ろ。と。俊。衛。と。ま。く。屏。風。の。ま。ふ。殿。れ。ろ。信。乃。ハ。と。ろ。ふ。由。新。せ。と。甘。た。
言。葉。ハ。と。身。の。毒。と。あ。り。バ。絶。く。耳。も。か。け。と。殆。困。ト。果。て。と。龜。條。こ。れ。を。
焼。け。ま。く。西。面。あ。り。一。室。小。赴。た。と。成。あ。ん。乃。子。舎。小。せん。読。書。の。目。忌。り。
あ。あ。可。要。あ。ふ。額。減。ま。と。遺。路。と。使。ひ。久。遠。慮。ふ。れ。も。知。ふ。よ。ろ。
の。や。で。飲。ろ。ひ。く。れ。ろ。ち。解。多。と。慰。め。く。他。事。も。あ。げ。め。を。管。待。ろ。か。く。
三。伏。の。夏。過。く。秋。の。初。風。と。比。信。乃。ハ。親。の。忌。ハ。果。し。り。こ。し。ろ。先。小。龜。
條。ハ。信。乃。ハ。女。服。ろ。成。男。衣。又。縫。更。め。この。日。城。壇。廟。小。あ。り。と。ろ。よ。年。ハ。

尚。十。一。あ。れ。も。人。あ。り。小。倍。を。身。長。ろ。と。六。十。四。五。歳。の。童。と。思。也。め。り。け。か。
祝。死。の。赤。飯。亭。小。額。の。隅。を。取。ろ。と。と。豫。て。夫。小。勸。め。ふ。墓。六。こ。れ。小。
後。ひ。と。元。服。の。儀。を。と。り。行。ひ。小。疎。略。ろ。と。ん。ろ。六。年。来。憎。ろ。一。里。
人。小。い。の。老。狸。小。欺。ま。と。く。いと。憑。く。か。り。ひ。け。り。あ。ま。ろ。の。古。又。由。信。乃。を。
只。そ。が。い。隨。又。悖。ハ。む。女。服。を。更。め。て。凡。常。小。後。ろ。と。ハ。父。番。作。が。送。訓。は。
稱。ハ。親。の。明。察。忝。く。あ。あ。ふ。つ。け。く。形。ろ。た。乃。の。久。後。を。定。め。く。終。ろ。と。ろ。
け。と。暮。れ。翌。と。明。せ。ば。い。と。今。茲。と。果。敢。た。く。送。り。く。次。の。年。の。春。三。月。俟。と。ろ。
あ。小。亡。親。の。一。周。忌。成。迎。へ。ハ。逮。夜。ろ。ハ。家。廟。又。公。龍。ア。ま。く。又。母。の。冥。福。ハ。祈。
る。の。外。な。り。明日。信。乃。が。墓。系。り。の。後。者。ハ。龜。條。豫。て。分。付。て。額。差。へ。遺。下。
これ。と。外。の。聞。を。憚。ま。ハ。通。達。と。く。物。ろ。け。と。寺。へ。詣。く。共。侶。小。こ。の。墓。を。
洗。浄。め。水。紙。汲。と。入。と。花。を。い。向。て。主。後。廻。向。小。時。を。親。せ。バ。涙。ぞ。い。と。進。と。

け。かくそのかゝるさ宿所へくまふ信乃はつゝ舊宅の棟をつく
うち眺望遠くもあぬ程あれども。下へ住まゐりて暮月小都
らまかかぬ物ハ重葎庭の草木を足くゆんとき傾頼れ片折戸を
推く主後進へ入る。檐小昔をまのが草柱斜に壁落て藁の外小物も
あゝ。現人去く趾のそめり。物変りて訪ふ由あり。あゝ。涙の媒
あふ去歳のその月と四郎が後の世の為榦を削く。如是畜生云云の
經文を書つけ。梅ハ殊更茂る。その削痕ハ癢文字ハ滅て昔梅子
夥生よりこの梅樹の下小埋。彼狗が肥ふあり。秋この花落。梅は
子の麓より稀なり。小枝毎は結子。これぞ今茲がうめあふ彼
見えと指さば額藏ゆきまゝあま。つくとうち瞻め叶めてたこの
梅ハその條毎ハ生りぬ世ハ八房の梅といふのありとふれと早めを

えぞうれとハ八房ふゆんといわれ信乃ハ心づれ寔ふと八房へう
おどろ代知る比より。斯條毎ハ生る。ふゆめを傳へぬとあり。畜生
あゝ主を知る。彼と四郎が名なり。員ハ四房ふて生るべしハ八房を
ゆふそむ。といひけと又とんかうんて奇ある。かかハ八房あるゆふあむ
み。實毎ハ模様あり。何ふゆと枝引よる。その實を取て共侶
やふ小乗せ日影は向ひく。ふふ自然と文字あり。一箇ハ仁一箇ハ義この
他礼智の文字あり。又忠信孝悌の四个字ある。その實毎ハ一字ハ
頭然とく讀まると。あふ至る。兩賢童ハ毛骨竦まで驚嘆。榦と
削りて写つけ。如是畜生云云のハ乃文字ハ消滅。今又その實ハ仁義
礼智ハ行の文字あり。あふゆふとむる。あふ疑ひ釋りけり。且て
額藏ハ膚護の囊ある。秘藏の玉を取出し。若子とて足る。梅の實と

青梅
香白
花
巴克亭鶏忠



天塚信乃

この玉とその形相似り。その文字も異なり。故あえりなれども。
曉りかていとのふ有理と。こまを小護身囊小秘あえり。玉をどうぞく
あせり。その小大も文字も等し。寔小然る。因狄果狄玉といひ梅と。
いひ符節をあせり。身試と推と。死ハこの玉原ハ八顆あり。
仁義八行の文字を具足するや。あふ遺る六の玉世ふ。といひか。
ら。この梅笑ぞ八房小生る。この玉とこの梅子小頭と。文字何ぞ等死
同。とも草木非常あり。叩けども玉石答さ。必しも因縁あふ。後ふ思ひあふ。
せん。人ハ口奇をぬむ。のをも人あふ。うろあふ。知と。これを生へる。
努秘ま。と密語あふ。その八房の梅子。小検。玉あり。共。
各囊小納め。荒る庭を走。出。宿所。還。これ。
年。泉月の比。梅の熟。と。墓六か家の小厮。ハ。さ。と。近。里。

人ホハイめてその八房を成て著つ。世ホメづらあるとたのしみとてある。夫婦ホ告るもあり。又彼此ホ語りつれ。風聞高くあるもの。その梅熟する不及び。彼八行の文字ハ滅る。この故ホ里人ホハ只ハ房を賞る。その文字のハあるもの。毎歳又その実ハ八宛生れども。文字ハこの春のそゆ。後ホ竟ハ顕る。されハ墓六亀條ハこまの。よを授とて。風雅のそ疎け。花果の樂を念とせ。只彼梅子のヨミ。秋ひ。年々又塩藏の。酒食の菜ホえる。この梅漸く小人ホ知る。名木ホたの。与四郎が。さえ。八房の梅ホ四郎塚と。故老の口碑ホ傳へ。後年數度の兵火ホ係。梅ホ枯。塚ハ鋤。今ハその蹟ホ認。只彼猫又橋の遺る。

第十二回

濱路竊ホ親族を悼む
糠助病々其子と思ふ

市説ノ塚墓六ハ信乃を迎。女房龜條共侶。愛。待。只外聞を飾。つろ小刀を磨。つろヨ。小。信乃が。一毫も用ひ。れ。村。兩の。大刀。得。これ。信乃。後。少年。結果。人。宝。刀。小。より。て。老。樂。事。為。損。吹。瘋。を。求。果。ハ。原。價。小。只。真。成。又。歎。待。由。斯。謀。と。腹。裡。ホ。深。念。亀。條。小。の。機。密。を。告。て。斯。謀。て。

あるところ。かれハ信乃が危死と石の下小生成を雛卵新小巢籠る雛小
 異る。孫とも親の先見送訓あり。加へて才器男悍牛若をも欺くべし。
 正行ゆめあつて。稀有の少年たるは。是バその情をよく知て。片晌も
 心を放さず。舊宅小あり。一日より。伯母の宿所移り。一日より。件の宝刀ハ
 腰小離さば。坐るとはハ傷ふ。措き臥せるとはハ枕ふ。せめて。護るの等
 閑る。孫ハ倫児の隙あり。主客の勢ひかくの如くあり。下とせあり。
 遂に。好智小長。墓六あれども。愁ふをくはく。足外められ。六年
 未日。心尽し。泡と消て。久しうと。陥む。孫ハ倫む。あつて。の稍
 懈。今茲又。村雨の大刀。小落とも。信乃が安穩。て。まふ
 と。それを管領家へ進。由。より。や彼宝刀。今日。有。小。多
 むとも。主。物。あり。日。物。あり。日。家。あり。終。ハ

有とあり。口。管。早。六。その謀施。か。不便。ゆ。
 多く小危。女児濱路ハ尚稚死。今より。十年待。その。逢。不
 の。遠く。謀。長。利。短慮ハ功を。か。と。漸。ハ。又。一。亀
 篠も。あつて。成。さ。且。盗むの。を。藏。め。只。を。額。小。信。乃。が
 意中を。撈。は。これ。信。乃。を。誑。さ。す。も。害。ある。と。ハ。い。ふ。を。
 主夫婦。小。同。る。毎。日。陽。信。乃。を。誑。さ。す。も。害。ある。と。ハ。い。ふ。を。
 その。同。れ。る。答。へ。を。小。告。さ。す。と。の。あ。け。は。信。乃。ハ。由。せ。に。
 とも。陽。ハ。伯。母。を。暮。ひ。小。所。は。む。く。使。れ。り。か。二。三。氣。在。持。し。
 春。と。明。け。暁。と。暮。れ。流。る。月。日。小。交。る。け。は。史。朝。も。や。九。年。小。あり。
 この。年。信。乃。ハ。十八。歳。濱。路。ハ。二。つ。り。て。二。八。の。春。を。迎。へ。花。然。ん。と。う。
 月。の前。小。芳。く。柳。翠。を。ま。り。霞。の。間。小。戦。ぐ。は。似。る。彼。ハ。奇。才。ハ。弱。村

あり此ハ婢婿少女あり。その器その色鄙み稀々この夫ありこの婦ありハ
定小天縁ありとく里人こゝに死なせむ。さうある。莊官夫婦をみる毎小その
婚姻を催促も墓六も亀條中。豫くいつるのあまハこの返答も迷惑して
害心あり小再幾し。竊小信乃を結果んとする急だのせられども十二歳の
時ふも謀りかた才子ある小今ハや丈夫ありて身長五尺八寸。聲力も
定め強く二葉小く摘む。竟小谷を用ゐるとぞいふたつ。さうい
ふへり。小悔しなる。成しけり。と脣を噛もその甲斐あり。さやせむ。かくや
せむと案じ煩ひ。さう折鄰郷忽地騒動し。不慮の合戦起り。小けり。
縁故を尋する小奥。小武藏國豊嶋郡豊嶋の領主小豊嶋勘解由左衛
門尉平信盛といふ武士あり。さうさせる大名あり。さういふ。志村十條尾久
神宮と。數郷を管領し。その弟煉馬平左衛門信盛ハ則煉馬の館小

あり。この餘平塚圓塚の一族蔓々。榮む。さう舊家あり。信盛兄弟その
初ハ。兩管領小後ひ。小聊怒り。さうさ。遂小胡越の思ひをさる。小後小
この比管領山内家の老臣長尾判官平景春越後上野兩國を伐靡て
既小自主の志あり。さうさ。豊嶋を相譚。さう信盛立地小一味同意し。く
い。管領小後ひ。さう。山内扇谷の兩管領。さう。びく。小軍旗を凝り。
敵の威勢微る。さう。小先。さう。豊嶋を討んと。文明九年四月十二日。巨田
備中。少持。資。植。杉。刑部。少輔。十。葉。小。自。胤。小。を。大。將。め。軍。勢。九。千。
餘騎。不。意。小。幾。さ。ま。と。池。袋。ま。推。寄。せ。さ。る。豊。嶋。が。さ。の。由。郡。く。
敵。寄。さ。る。さ。の。ひ。り。後。ど。一。族。の。れ。中。に。在。る。鎧。投。被。け。馬。騎。走
り。彼此より集會し。搦大將信盛の一陣。小煉馬平塚圓塚乃軍兵合
せ。二百餘騎。江古田池袋。小馳向ひ。用を咄とあひせ。征箭を射る。

豊嶋の一族
豊嶋家の三
将之他袋
戦ふ

豊嶋平左衛門直盛



植村刑部

すゑのふり



引退しあれ西軍入索れ遣使に戦れつ火花をちりて日わく戦
 う。豊嶋小勢あるときも。初度の戦ひ小千葉植杉を殺崩し頻に提小
 乗るもの。更不用意めく腰兵糧を推し兵士率漸く小飢渴を勞れく。
 引退うんとする。引退する。大将備中。以持資。麾うち揮く味方を激し。
 短兵急攻立し。豊嶋は辟易し。戦うもの。その數はあまき千葉植
 杉。小千葉。亂れぬ。魚鱗は備へ文字小駢散し。息を吻せ。接ぎと
 けし。豊嶋の士率八算を素く。悉砍伏ら。刺信盛倍盛と乱軍の
 中。移れぬ。情む。豊嶋煉馬の両大将。一朝の怒ふより。強弱乃
 勢ひ成。揃ら。一族郎黨。數を彈く。舊家忽ふ亡び。これよりて
 世間且く静る。菅菰大塚の里。やも人のころの。穂あ。ねの。又只。蠶
 六龜條。ホ。と。成。車。ひの。ふ。ひ。ひ。か。て。子。も。の。煙。中。今。茲。ハ。整。ひ。

難く。明年。波風。あ。さ。さ。さ。必。濱。路。を。妻。ハ。信。乃。小。村。長。を。讓。人。と。く。
 里人。ホ。も。う。を。告。且。一。鬼。を。逃。れ。り。さ。ま。亦。墓。六。が。養。女。濱。路。ハ。九。歳。
 の。比。より。二。親。の。口。づ。信。乃。ハ。夫。よ。汝。婦。よ。と。い。ひ。離。た。る。言。葉。此。處。を。
 実。と。受。て。海。士。が。没。む。あ。ま。こ。う。つ。れ。し。う。よ。小。恥。く。秋。く。それ。ハ。の。ふ
 そ。の。人。よ。お。い。ろ。く。も。樂。く。て。心。小。入。く。仕。さ。る。今。も。彼。二。親。ハ。養。ひ。女。と。い。ふ
 よ。を。濱。路。ハ。告。も。さ。さ。せ。只。生。三。月。の。子。の。と。く。は。る。と。こ。納。小。生。は。も。め。
 あ。ま。て。実。の。親。ハ。煉。馬。の。家。臣。某。と。い。ふ。め。め。同。胞。も。あ。る。よ。を。濱。路。ハ。不
 信。中。ハ。年。十二。三。の。比。る。さ。ま。あ。ま。と。思。ひ。あ。さ。れ。バ。現。在。の。親。連。が。人。の。愛
 る。と。い。ふ。と。い。ひ。と。い。ハ。表。裏。中。傷。小。人。の。る。折。ハ。さ。も。る。は。る。の。成。馬。屋。め。
 捨。る。と。見。せ。く。撮。縮。る。と。推。れ。と。い。ふ。あ。ま。く。な。り。れ。その。字。の。思。浅。き。ふ
 わ。と。現。生。さ。ぬ。親。子。な。り。い。も。悲。し。め。め。ハ。る。抑。が。実。の。親。ハ。煉。馬

えまぢ



